

平成24・25年度宝塚市子ども委員会

意見書への対応状況について



平成24年度子ども委員会



平成25年度子ども委員会

初版
第二版

平成27年（2015年）3月
平成31年（2019年）3月

宝塚市

目次

平成24年度

- 1 グループ ハッピータウン 「良いまちづくり」** . . . 1
- | | | |
|--------------|----|-------|
| 仁川小学校 | 5年 | 川口 潤 |
| 関西大倉中学校 | 3年 | 岸田 命 |
| 小林聖心女子学院高等学校 | 1年 | 片山 菜束 |
| 小林聖心女子学院高等学校 | 3年 | 逢坂 仁葵 |
- 2 グループ Greeeeeeen 「美のまち宝塚」** . . . 4
- | | | |
|-------------|----|-------|
| 長尾小学校 | 5年 | 宮本 侑昂 |
| 長尾南小学校 | 5年 | 河原 葵衣 |
| 宝塚第一小学校 | 6年 | 大泉 陽路 |
| 宝塚第一小学校 | 6年 | 尾崎 佑真 |
| 小林聖心女子学院中学校 | 1年 | 永井 莉央 |
- 3 グループ Let's Enjoy School 「楽しい学校づくり」** . . . 7
- | | | |
|--------------|----|--------|
| 売布小学校 | 6年 | 前田 沙菜 |
| 宝塚第一小学校 | 6年 | 天野 由唯 |
| 小林聖心女子学院高等学校 | 1年 | 小林 すみれ |

平成25年度

- 1 グループ 道路の窓口 「事故ゼロ」** . . . 11
- | | | |
|-------------|----|-------|
| 売布小学校 | 5年 | 前田 智弘 |
| 小林聖心女子学院小学校 | 5年 | 藪田 琴音 |
| 仁川小学校 | 6年 | 川口 潤 |
| 聖母被昇天学院中学校 | 1年 | 白方 晏 |
- 2 グループ SAKSA'S 「外国人と心を通じあわせる」** . . . 13
- | | | |
|--------|----|-------|
| 仁川小学校 | 5年 | 木村 雫 |
| 長尾南小学校 | 6年 | 河原 葵衣 |
| 親和中学校 | 1年 | 前田 沙菜 |
- 3 グループ ラッキーCity宝塚 「まちの活性化」** . . . 15
- | | | |
|-------------|----|-------|
| 光明小学校 | 6年 | 奥田 陽人 |
| 宝梅中学校 | 1年 | 大泉 陽路 |
| 宝梅中学校 | 1年 | 隅 颯太 |
| 小林聖心女子学院中学校 | 2年 | 永井 莉央 |

24	グループ名	テーマ	良いまちづくり
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
<p>質問（提案）：</p> <p>市役所の周辺で車イスを体験しましたが、歩道に木があれば見た目はきれいですが、狭い歩道だと車イスがとりにくし、ゆるやかな坂道でも車イスはとても大変でした。また、横断歩道と歩道の段差がまだ解消されていないところもありました。</p> <p>それらを改善するための策として、例えば電柱を地中に埋めれば、道を広くでき、景観もよくできると考えます。また、歩道と自転車道、車道はできるだけ分けてほしいと思います。また、木を植える場合でも、枝が歩く人の邪魔にならないようにする必要があります。</p>			
<p>回答：</p> <p>電柱を地中に埋める無電柱化は、都市景観に加え、防災対策、バリアフリーの観点からも効果がありますので、市内の主な幹線道路では、兵庫県と調整しながら無電柱化を進めており、現在、県道尼崎宝塚線と生瀬門戸荘線で整備を進めています。</p> <p>また、歩行者と自転車を分離する自転車道については、県道生瀬門戸荘線で無電柱化に併せて整備を進めています。自転車道を整備するスペースのある道路は限られていますので、その他のスペースのない道路では早急な設置は困難ですが、現在、自転車を利用しやすい環境の整備についての取り組みが全国的に高まっていることから、今後も引き続き自転車道の整備の可能性について検討していきます。</p> <p>街路樹については、定期的に枝の剪定(せんてい)などを行っています。また、街路樹の種類についても、以前は成長が早く剪定すると枝が広がりやすいケヤキなどの木を植えていましたが、最近では歩行者等の邪魔になりにくく成長の遅いハナミズキなどを植えています。</p>			
<p>その後の対応状況：</p> <p>県道尼崎宝塚線と生瀬門戸荘線の無電柱化は、順調に工事が進められ、あと数年のうちに段差のない広い歩道が完成しますので楽しみに待っててください。</p> <p>また、歩行者と自転車を分離する自転車道については、県道生瀬門戸荘線で無電柱化に先駆けて、2月2日から阪神競馬場から小林の間で供用が始まりました。工事を行った兵庫県は、引き続き消防本部前まで整備を行う予定としています。</p> <p>このように大きな道路では、少しずつですが順番に歩道と自転車道の整備に力を入れていますが、皆さんも交通安全に十分に気を付けて道路を利用してください。</p> <p style="text-align: right;">（道路政策課）</p>			
<p>質問（提案）：</p> <p>宝塚市の観光の発展について、新しく公共の施設を作ったりするのではなく、今あるものを利用して広い空き地などで野外イベントを行ってはどうでしょうか。</p> <p>例えばギネス世界記録のうち、比較的簡単に達成できるものを選び、市民や観光客らによって新記録を更新する案を考えました。具体的には、武庫川の河川敷でラインダンスの長さ世界記録をつくるなどです。</p>			
<p>答弁：</p> <p>市町村でギネス世界記録に挑戦することは、知名度を高め、地域の団結力を強めるなどの良い点があり、多くの自治体で実施されています。例えば、三重県の伊勢市では真珠のネックレスの長さで世界一に挑戦したり、沖縄県の石垣市では、石垣牛を使った長い串焼きに挑戦したり、多くの人に来てもらうことに成功しています。</p> <p>提案いただいた内容もラインダンスの長さにも挑戦と、非常に「宝塚歌劇」のまちらしい提案です。それを実現していくためには、宝塚に来てくれる人にも楽しんでもらう、何か思い出になるといった工夫が必要です。</p> <p>本市は平成26年（2014年）に市政60周年、歌劇100周年、手塚治虫記念館開館20周年の記念の年を迎えます。その記念の年に向け、市民や観光客のみなさんが参加し楽しむことのできるイベントの実施について、提案いただいた皆さんにも協力いただきながら、どのような形で実施すれば効果的か、一緒に考えていきたいと思います。</p>			
<p>その後の対応状況：</p> <p>提案を受けて、2014年11月1日（土）に武庫川河川敷で「1万人のラインダンス」というギネス世界記録に挑戦するイベントが行われ、世界記録を達成されました。宝塚青年会議所などの民間の方たちが中心となって実現しましたが、市役所の職員もラインダンスに参加したり、スタッフとしてお手伝いしたりして、いろいろな形で協力しました。</p> <p style="text-align: right;">（観光企画課）</p>			

質問（提案）：

国際交流もからめた観光として、さまざまな国の料理やおやつ、スイーツを食べられるようにするグルメ祭りを開くことや、外国人とお茶会を開き、日本の伝統文化に触れてもらいながら、日本のアニメ文化についてともに語り合える場をつくってはどうか。

外国人から見た日本の文化はわが国の伝統的な文化と現代のアニメや漫画などの文化との2つに分かれるため、それら2つをカバーすることができ、多くの外国人を呼び込めると考えます。特に後者については、手塚治虫氏の漫画・アニメを海外に売り込むことができ、より多くの人に手塚漫画を伝えることができます。

こうしたイベントをツイッターなどでのおよびかけによってより多くの人を集めます。

答弁：

グルメ祭りについては、現在、宝塚市は「おいしいまち宝塚」と題して、スイーツイベントを行っています。今後は、国際交流や観光面に配慮(はいりょ)したイベントについて研究していきます。

アニメについては、提案いただいたとおり、宝塚市は世界でも有名な手塚治虫先生が少年時代を過ごした場所であり、手塚治虫記念館を設置していることから、様々な国からの観光客も訪れており、今年度もアジアからたくさんの方々が訪れます。アニメ文化に関して交流することが大切ですので、これから外国客との交流の機会について取り組みを進めます。

その後の対応状況：

宝塚市の観光名所や手塚治虫先生の魅力を、外国の方に伝える方法として、外国の旅行会社が集まるイベントに参加してPRしたり、外国の人気ブロガー（インターネット上に自分の体験や意見を日記みたいな形で発信している人）を宝塚市に招待し、体験したことをブログを通して世界に発信してもらったりしています。

また、宝塚市では、「おいしいまち宝塚」という事業の取組の一つとして、和洋菓子・各国料理のつくり方から小さな店の始め方まで、宝塚の人気シェフや職人などプロから直接学べる「宝塚グルメアカデミー」を開催しています。参加店舗の一部では、外国人の方が講師となられる場合もあり、参加者には国際交流の面からも喜んでいただいていますので、今後もこのような参加店舗を増やせないか検討していきます。

(商工勤労課、観光企画課)

質問（提案）：

観光と国際交流のまちにするためには、外国人への配慮をすることも大切です。様々な表記やレストランのメニューを複数の言語にしたり案内板を設置すると、外国の方々にも便利です。

答弁：

現在、宝塚商工会議所の観光部会において、外国人の対応の仕方などについて様々な角度から研究しているところです。例えば、1)どの外国語に対して必要か(英語、韓国語、フランス語など)、2)どこで活用できるか(飲食店、ホテル、観光施設など)、3)外国から来た人が実際に使い勝手の良いものにするにはどのようにしていくか、です。

宝塚市としても、外国からの観光客の誘致によるまちの活性化を図るために、宝塚商工会議所と一緒に研究しており、今後も取り組みを進めます。

その後の対応状況：

案内板については、まわりの景観とのバランスや設置場所や表記する言語の選択など課題もあり、いろいろな言語が載っているものは設置できていません。今後、多くの方が使っていて情報量も多いスマートフォンの活用を考えながら、外国の方にもわかりやすい案内方法を考えていきます。

(観光企画課)

質問（提案）：

福祉の視点から、外出することを躊躇(ちゅうちよ)してしまいがちな障害者の方々のために、市民のみなさんの意見に一つ一つ目を通し、利便性の高い設備の導入や改善に取り組むことは大切だと思います。

また、市民のみなさんが障害のある方や高齢者への理解を深めることが必要と考えます。特に健常者と見えても障害がある方への理解を深める努力を積極的にするため、より良い介助の方法を紹介した無料冊子を配布するのはどうでしょうか。

答弁：

宝塚市は平成11年から「シンシアのまち宝塚」として、市民の支えあいにより、障がいのある方だけでなく高齢者や幼児など全ての人にとってやさしいまちづくりを目指しています。具体的には、歩道の段差解消を進めるほか、市の建物だけでなく民間も含めて多くの人利用する建物のバリアフリーを進めています。施設の規模などによって、スロープの傾斜、廊下幅や廊下・階段の手すり、トイレや手洗いの手すり、車椅子トイレ、エレベーター、エスカレーター、身障者用駐車場などの整備を進めています。

また、重度の身体障がいがある方には、電動車いすなどの費用の支給や住宅改修費の助成をしています。今後も、市民の方のご意見を聴きながら、少しでも障がいのある方が、生活しやすくするための事業に取り組めます。

障がいのある方の中には、心臓や腎臓などの内部障がい、精神障がい、知的障がい、発達障がいの方がおられ、身体の外見上だけで障がいの有無が分からないことから、必要な支援やサポートが受けられないことや、また、障がいのある方に対する間違った情報や偏見もあります。

宝塚市では、「シンシアのまち宝塚」として、補助犬の普及啓発だけでなく全ての障がいのある方が、自立し社会参加できるまちを目指しています。中学2年生の社会の公民的分野でも障がい者とともに生きる社会で介助犬シンシアがとりあげられているほか、小中学校には「ふれあう心」や「むすぶ絆」といった福祉読本があります。

障がいのある方への理解を一層深めていくために、このような冊子や市の広報、ホームページなどを活用して、障がいに関する情報を発信していくとともに、平成25年度（2013年度）に新たに障がいや障がい者のことがよくわかるパンフレットを作成し、配布する予定です。

その後の対応状況：

障がいのある方の中には、身体の内部障がい、精神障がい、知的障がい、発達障がいの方がおられ、身体の外見上だけで障がいの有無が分からないことから、必要な支援やサポートが受けられないことや、障がいのある方に対する間違った情報や偏見もあります。

宝塚市では、「シンシアのまち宝塚」として、障がいのある人も、自立し社会参加できるまちを目指しています。中学2年生の社会の公民的分野でも障がい者とともに生きる社会で介助犬シンシアがとりあげられているほか、小・中学校では、「ふれあう心」や「むすぶ絆」といった福祉読本があり、先生方が協力して、平成26年度版を新しく作成しています。

この他に、障がいのある方への理解を一層深めていくために、障がいや障がい者のことがよくわかる、わかりやすいパンフレットがありますので、購入して配布します。

(障害福祉課)

担当部課：環境部（生活環境課、管理課）、都市安全部（公園緑地課）、
教育委員会（学校教育課）

24	グループ名	Greeeeeeeen	テーマ	美のまち宝塚
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応				
質問（提案）： 道路や公園などのゴミ拾いについて、他市を訪問した際、神戸市では「まち美化エンジェル」という学生を中心とした市民のボランティア団体がまちのゴミを拾ってまちをきれいにする活動を行っていることを知りました。 宝塚でも広報や市内の小中学校、公共施設にチラシやポスターを配布し市民の人を募って、月に1回など活動する日を決め、みんなでゴミ拾いをしてはどうでしょうか。ゴミを拾うことによってまちがきれいになることが期待できます。まちがきれいだと、ポイ捨てをする人が、減ると思います。				
答弁： 宝塚市では、市内の自治会が作っている環境衛生推進協議会のみなさんと一緒に、春と秋の年2回「宝塚を美しくする市民運動（一斉清掃）」に取り組んでいます。一斉清掃を行うときには、市の広報誌や自治会の回覧等を使って、市民のみなさんに参加を呼びかけており、今年度11月に実施した一斉清掃では、200団体3万人を超える市民のみなさんに参加いただき、約80トンのごみや約50トンの泥を回収しました。 そのほかの日でも、自治会、マンションの管理組合、会社やボランティアのみなさんに、まちの美化運動に取り組んでいただいています。市役所でも、仕事の始まる前等に、職員による市役所や公共施設周辺の美化に取り組んでいきたいと思っています。 また、すでに美化に取り組んでいるグループや団体のみなさんとも協力しながら、活動を拡げていくとともに、市民のみなさんが気軽に参加できる仕組みをつくっていきます。				
その後の対応状況： 宝塚市では、宝塚を美しくする市民運動（一斉清掃）として、毎年5月と11月に市民のみなさんとの清掃活動を35年以上継続して実施しています。平成25年度から市役所でも、その日に合わせて職員ボランティアが市役所の周辺を清掃を実施しています。 また、自治会や学校など地域のみなさんが行う自主的な清掃活動に対しては、清掃後のごみの回収や、活動への参加募集を広報誌で行う等協力しています。 さらに、平成27年3月には、新しいばい捨て条例を制定しました。この条例を市民の皆さんに知っていただき、守っていただくように啓発しながら、ばい捨てがされないような仕組みづくりを行っていきます。				
（生活環境課）				

質問（提案）：

生ゴミを肥料に変えるコンポストを市の各家庭に利用してもらい、ゴミの量を減らしてはどうでしょうか。コンポストは生ごみをはっこうさせて肥料に変えることができます。コンポストを利用することで、各家庭から出る生ゴミを減らせます。コンポストなら家で気軽に環境を良くする手伝いが出来ます。

学校では、環境について学ぶ時にコンポストを配布します。毎日給食などで出る生ゴミをコンポストに入れてもらいます。そしてできた肥料を学校の花や木に使い、コンポストについてみんなで体験し、学んでもらいます。

答弁：

クリーンセンターでは、平成8年度から希望者に対して生ごみの室内用コンポスト容器を有料で配布しており、今年度9月までに延べ6,781世帯、8,861台を配布しました。今後も引き続きこの取り組みを続けていきます。

今回の提案を受け、小学校4年生が社会見学でクリーンセンターに来られた時には、家庭にある段ボールを使って生ごみの堆肥化(たいひか)ができる段ボールコンポスト等の実施を呼びかけるとともに、室内用コンポストや段ボールコンポスト等の生ごみの堆肥化の方法について「広報たからづか」等で市民にPRしていきます。

また、ダンボールコンポストの仕組みや使い方を学ぶ機会をもつことやグループで協力してコンポストの中の変化を知るなど、具体的にどの学習で実践できるか、学校の先生と相談します。

その後の対応状況：

市では室内用コンポスト容器を有料で、希望者に配布していましたが、メーカーが製造を中止したため、平成26年度より中止しています。

一方で、提案いただいたダンボールコンポストの実施について、小学4年生の見学時に見本を展示して生徒さんに呼びかけています。

現在は、学校へのコンポストの配布は行っていませんが、いくつかの学校では、独自に、給食などで出る生ゴミをコンポストに入れ、できた肥料を学校の花や木に使うなど、コンポストについての学習を続けています。

(管理課、学校教育課)

質問（提案）：

コンポストによるごみの減量化で削減できたお金で苗や種を買って市民に配ります。緑が増えると二酸化炭素を削減できる上に、まちが美しくなります。少しの緑でも、ゴーヤカーテンのように、日光をさえぎり涼しくなるので省エネにもつながります。具体的には、緑のリサイクルセンターのリサイクルチップを活用し、大人も子どももボランティアとして、花や木の世話をします。神戸市では企業花壇というものがあり、企業が世話をし、その花壇には会社の名前が書いてあります。そこで私たちは「子ども花壇」というのを提案します。「子ども花壇」とは地区や学校ごとに花壇をつくり、子どもたちが世話をするものです。

答弁：

市内のいろいろなところで「子ども花壇」ができれば、市民のみなさんも喜ばれるでしょうし、環境にも配慮されたすばらしい意見です。しかし、これを実行に移すには段階的な取組みが求められます。まず、花壇作りや花の育て方など基本的な知識を学ぶこと、次に日常的な世話ができる適当な場所を探すこと、さらに、花壇をいつまでも美しく保つための努力も大切ですので、既に各地域で花壇づくりを行っている大人の方たちと子どもたちが一緒になって取り組む必要があると考えます。このため、最初の取組みとしては、花壇作りや花の育て方など基本的な知識を学ぶために、地域の花壇を管理しておられる地域緑化団体の活動に参加できるように団体に相談しますので、それから順次手順を踏んで花壇作りへ進めていきたいと思います。

学校での取組みについては、コンポストで作った堆肥を学校の花壇等に活用することなどをみなさんにお知らせしていきます。「子ども花壇」づくりには、PTAのみなさんに協力を呼びかけ、学校・家庭・地域が連携して取り組めるよう進めていきます。また、どんな花苗を各学校園の花壇に植えるとよいか、など、児童会や生徒会で話し合い、できることから取り組んでみてください。

その後の対応状況：

花壇作りや花の育て方など基本的な知識を学ぶために、地域の花壇を管理しておられる地域緑化団体の活動に参加できるように団体に相談し承諾を得ていますので地域の団体にお声掛けをしてください。各学校では、PTAや地域の皆さんに協力いただきながら、環境体験学習を中心に子どもたちが花壇の環境整備に努めており、この学習が花の育て方を学ぶことや環境問題を考えることにつながっています。

（公園緑地課、学校教育課）

質問（提案）：

美のまち宝塚のボランティアに参加する人を例えば「宝エンジェル」と呼びます。そして、宝エンジェルをみんなに知ってもらうために子どもたちから宝エンジェルのキャラクターや名前を募集して、市民に楽しんでもらえる活動を目指してはどうでしょうか。

答弁：

まちの美化に取り組むボランティアを愛称で呼ぶことや、キャラクターを設定することは、誰もが気軽に活動に参加しやすくするために有効な取り組みだと思います。「美のまち宝塚」に向けた活動を、子どもからお年寄りまで、あらゆる市民のみなさんに楽しんで参加いただけるように、わかりやすく情報の発信を行っていきたいと思います。

その後の対応状況：

宝塚市では、ボランティア活動に対して、参加募集の協力を行っております。ボランティア活動への「愛称」の設定等は考えておりませんが、今後も市民のみなさんによるボランティア等の取り組みや提案がなされた場合には、一緒に協力していきたいと思っています。また、市民の皆さんに楽しんで参加していただけるよう、引き続き、わかりやすい情報の発信に努めてまいります。

（生活環境課）

24	グループ名	Let's Enjoy School	テーマ	楽しい学校づくり
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応				
<p>質問（提案）：</p> <p>判断力の底上げをしていくために、ディスカッション形式の授業を増やすことや、修学旅行の行き先を自分たちで決めるというのはどうでしょうか。</p> <p>こうすることで自分の意見を持つことができます。そして友達との意見交換により生徒それぞれがさまざまな分野で個性を伸ばしていくことが可能だと思います。何事にも挑戦し取り組みれば生徒もやる気になると思います。</p>				
<p>答弁：</p> <p>欧米では、人と違う考えであっても説得力を持って議論するディベートの授業を多く行っていると聞きます。友だちと話し合うことで、興味や関心のあることがもっと湧(わ)いてきますし、自分の考えを頭の中で整理して、相手にうまく伝えようとすることで、学力も向上していきます。</p> <p>市内の中学校の中には、ディベートの学習を通して、生徒一人一人が学校での自分の役割をしっかりと自覚できるよう取り組んでいる学校があります。クラスの課題、携帯電話を中学生が持つことの是非などをテーマとしたものでした。</p> <p>判断力や説得力を身に付け、自分の考えをしっかりと表現していくことが大切であり、自分の意見をしっかりと持つことは、日ごろからの訓練だと思います。現在、各学校では工夫していろいろな学習方法を取り入れています。今後とも、子どもたち一人一人の判断力が身に付くような学習に取り組んでいきます。</p> <p>修学旅行は、学校生活の中でも特に思い出となる行事の一つです。中学校では1年生の時に行き先や内容についてのアンケートを生徒や保護者からとり、その結果を生かしながら、よりよい修学旅行となるように計画している学校もあります。また、「最高の修学旅行を考える」というテーマで、行き先や交通手段、旅行での体験内容などのアイデアを班で話し合い、クラスみんなにプレゼンテーションするといった試みをしている学校もあります。</p> <p>どの学校も、児童生徒のみなさんの安全を考え、めあてや行き先、内容を決めていますので、先生に相談しながら思い出に残るよりよい修学旅行となるよう取り組んでください。今回の意見については、教育委員会から各学校の校長先生に伝えるとともに、学校での取り組み例も紹介していきます。</p>				
<p>その後の対応状況：</p> <p>各学校では、ディスカッション形式やグループ学習の授業をはじめ、さまざまな学習方法を取り入れており、判断力や説得力、自己表現力の育成を図っています。また、毎年、市立中学校生徒会の交流会を開催しており、東日本大震災の復興やいじめ問題について、中学生が協力して取り組める活動について意見交流しています。今年度は、「ストップ・ザ・いじめ たからづか子どもサミット」を開催し、宝塚市いじめ撲滅宣言を作成するなど、生徒の主体性を尊重した取組を進めています。さらに、小学生を対象に劇作家の平田オリザ氏による演劇ワークショップを行うことで、児童の自己表現力の向上に努めています。</p>				
（学校教育課）				

質問（提案）：

宝塚市内の小学校と中学校が交流する機会を作りたいです。

小学生特に高学年は進学する中学校への関心が高いのですが、中学校の学校見学では教員による説明が主なので、もっと中学生である先輩の実体験が聞きたいです。

例えば、中学生が小学校に訪問してクラブ活動の種類や紹介、学園祭や体育祭のイベントなど、プレゼンテーションを実施してもらえれば小学生は中学校のことがもっと理解できると思います。

答弁：

小学生にとって、中学校は期待やあこがれの場所であると思います。しかし、学習内容が高度になったり、学級担任制から教科担任制に変わったり、一日の生活リズムが変わってしまう等、不安に思うことがあるかもしれません。

現在、学校によって違いがありますが、小学生が中学校の先生に体育や外国語活動を教えてもらう授業や部活動体験を行ったり、中学校の生徒会役員が校区の小学校に行き、学校生活や部活動などの学校紹介を行ったり、幼稚園・小学校・中学校が合同で音楽会や体育大会を行ったりしており、このような活動は少しずつ増えてきています。今後ともこのような取り組みが広がるようにしていきます。

その後の対応状況：

小学校では、中学校の先生に体育や外国語活動を教えてもらう授業や、部活動体験を行っています。また、中学校区内の取り組みとしては、中学校の生徒会役員が校区の小学校に行き、中学校生活や部活動などの学校紹介を行ったり、幼稚園・小学校・中学校が合同で体育大会や音楽会などの行事を行ったりしています。このような活動は年々活発に行われており、今後もこのような取り組みがさらに広がるようにしていきます。

（学校教育課）

質問（提案）：

海外の学生とさまざまな交流を実施したいです。

宝塚市の姉妹都市であるアメリカ・ジョージア州オーガスタ市の学生達と学校を母体にして寄せ書きなどの交換を実施したいです。現在、オーガスタ市と民間交流をしていますが、学校どうしの交流は実施していないので、ぜひお願いします。

外国との交流が盛んになれば、国際意識も深まり、海外文化や日本の文化を紹介できると思います。

また、小学校では英語の授業はありますが、外国文化の授業はありません。宝塚市にお住まいの外国人が、日本語の勉強や地域コミュニティーに参加するきっかけとして、外国人に小学校に来てもらい自国の文化などのスピーチを行ってもらえれば、小学校でも様々な国の文化に触れることができ、お互いにメリットがある事業になると思います。

答弁：

宝塚市ではオーストラリアのメルビル市と、お互いの中学生が訪問し合う交流を毎年行っています。現地では、ホームステイや学校生活体験などを通して、異文化を肌で体験できる機会となっています。

提案いただいた姉妹都市であるオーガスタ・リッチモンド郡との交流では、これまでに安倉北小学校が文通交流、宝梅中学校が音楽交流などを行ったことがあります。もう一つの姉妹都市であるウィーン市第九区については、宝塚市国際交流協会が市内の中高生の参加者を募集して、文通交流を行ったことがあります。市としては、文通先を探して橋渡しの努力をしますので、クラス単位での文通交流については、どのような国のどのような年齢の人たちとしたいのか、学校の先生と相談して市に連絡してください。

学校によっては、宝塚市国際交流協会にお願いし、外国人などに市内の小中学校に来ていただき、授業を行ってもらっています。ゲストティーチャーとして、食べ物や服装、住まいや言葉や遊びを教えてもらっています。

今後、提案にあったように、自国の文化や日本に来て良かったこと困ったことなどスピーチしていただくことで、違いを知り違いを認め合う心を養い、日本の良さにも気付く事ができると考えられますので、より多くの学校で、ゲストティーチャーの授業が増えるように努力していきます。

その後の対応状況：

提案いただいた姉妹都市であるオーガスタ・リッチモンド郡との交流では、これまで安倉小学校が文通交流、宝梅中学校が音楽交流などを行ったことがあります。もう一つの姉妹都市であるウィーン市第九区については、宝塚市国際交流協会が市内の中高生の参加者を募集して、文通交流を行ったことがあります。市としても、文通交流が出来るよう協力しますので、クラス単位で文通がしたいということになれば、学校の先生と相談してください。

また、外国文化の授業についてですが、学校によっては、宝塚市国際交流協会にお願いし、外国人などに市内の小中学校に来ていただき、授業を行ってもらい、平成25年度には3回実施しました。

オーストラリア・メルビル市との中学生交流は引き続き、行われています。平成26年度（2014年度）には、宝塚市長がメルビル市長や交流校の校長先生のもとを訪問し、交流を継続していくことを確認しました。今後も、オーストラリアの中学生との交流は継続して行います。

また、現在、多くの学校が、外国人をゲストティーチャーとして招き、文化や言葉などを学ぶことはもちろん、互いの文化の違いを知り、認め合うとともに、日本の良さを再認識しています。また、小学校の外国語活動では、英語だけでなくさまざまな言語や文化に触れ、コミュニケーションの力を高めるようにしています。今後も、より多くの学校で、ゲストティーチャーの授業が増えるように努めていきます。

（文化政策課、学校教育課、教育研究課）

質問（提案）：

授業形態について、教科ごとの少人数制の導入を検討してください。

例えば、社会などの教科では、少人数にすることでその課題についてグループで理解を深め、みんなで話し合う事ができると思います。

一方、算数などの問題を解いていくような教科では、ある程度全体での説明を加えながら、一人一人が問題を解くところを先生がのぞいていく形式がより個々の学力向上につながると思います。

また、理科では人数が多すぎて実験をしても器具すら触れられない人もいるので、特に少人数制にする必要があると思います。

答弁：

現在、小学校高学年や中学校では、算数や英語を中心に少人数指導や複数の先生が指導を行う授業を取り入れており、意見の交換が必要な国語科や社会科においても内容によっては、グループ学習を取り入れる等、工夫しています。今後もきめ細かな授業を行っていきます。

なお、外国では日本より学級規模が小さく、少人数授業を行っているところもあると聞きます。日本でもさらにきめ細かい授業が行えるよう、先生の増員について県教育委員会に要望していきます。

その後の対応状況：

各学校では、算数や数学、英語の授業を中心に、少人数指導や複数の先生が指導を行う授業を取り入れているほか、意見交換が必要な国語や社会の授業でもグループ学習等を取り入れる工夫をしています。平成26年度からは、小学校にサイエンスサポーターを配置し、理科の観察や実験の支援、教材開発や環境整備等を行っています。

先生の増員についても、県教育委員会に要望しており、今後も引き続き要望してまいります。

（学校教育課）

25	グループ名	道路の窓口	テーマ	事故ゼロ
質問・提案内容（あらかし）と答弁後の対応				
<p>質問（提案）：</p> <p>宝塚市は今年度（平成25年11月時点）、まだ死亡事故ゼロというすばらしい現状を知ったので、死亡事故ゼロを市民のみなさんに知ってもらうことを提案します。</p> <p>そうすることで、車や自転車を運転する人が事故を起こさないようにしようと思い、注意深くしたいと思います。</p> <p>方法として、もっと多くの人に知らせるために、警察や市役所の人がインターネットで死亡事故ゼロを伝えるホームページを作って、トップページで知らせたらいいと思います。ラジオでは、エフエム宝塚のニュースで「宝塚市は死亡事故ゼロなのでこれからも続けることを心がけましょう」と放送してもらいます。インターネット等では小さい子どもも興味を持ってもらえるようにキャラクターを使って、分かりやすく、楽しく見られるものにすれば良いと思います。</p> <p>答弁：</p> <p>宝塚市では、10月25日で事故発生時から24時間以内の交通死亡事故が発生していない期間が400日を超えたため、11月21日に兵庫県知事から表彰状とあわせて県庁の担当職員から「受賞は市民の皆様のご協力の賜物(たまもの)」との言葉もいただきました。</p> <p>この「交通死亡事故ゼロ」は11月末現在も続いており、このゼロが長く継続することはもちろん、交通事故そのものをなくすよう市民の皆様にお知らせして、交通安全の意識を高めていただくことが大変重要です。</p> <p>現在の取組みとしては、交通死亡事故の防止はもちろん、交通事故そのものの防止のため、警察署や交通安全協会などの皆さんと協力して、地域や学校において自転車の実技や整備点検などを学ぶ自転車教室や道路の安全な歩き方や横断などを学ぶ交通安全教室を開催したり、街角などで交通安全を呼びかけたりしています。</p> <p>特に、10月1日には「宝塚市自転車の安全利用に関する条例」を作りましたので、自転車の安全な乗り方や整備・点検、万が一の事故に備えての保険の加入などについて、広く市民の皆さんに訴えているところです。</p> <p>また、学校や地域からのご要望も含めて、ガードレールやロードミラーなどの設備や道路の整備に取り組むなど、交通事故が起きないように対策も積極的に行っています。</p> <p>こうした取組みとあわせ、宝塚警察署と協力しながら、市のホームページや広報たからづか、市役所の職員が出演するエフエム宝塚の「地域安全ニュース」のコーナーなどを通して、ご提案いただいたとおり、広く市民の皆さんに交通死亡事故ゼロが続いていることをお知らせするとともに、交通事故発生状況や交通事故防止のために注意すべきことなどをお知らせすることにも取り組めます。</p> <p>なお、学校からの手紙や市のホームページには、親しみが持てるよう、兵庫県警察のシンボルマスコットの「こうへいくん」「まもりちゃん」などの積極的な活用を検討します。</p>				
<p>その後の対応状況：</p> <p>人口20万人都市の宝塚市で交通死亡事故ゼロが400日以上続きましたが、平成25年12月に1名、平成26年1月に1名、平成27年2月に1名の交通死亡事故が発生しました。また、兵庫県下では、平成26年秋以降に交通死亡事故が急増しています。悲惨な交通死亡事故を撲滅するため、警察署などと連携して、街頭啓発、交通安全教室の開催の他、理解しやすいホームページの掲載を進めていきます。</p>				
（防犯交通安全課）				

質問（提案）：

自転車の事故を減らすために自転車のルールを知ってもらう説明会などを増やすことを提案します。

平成25年10月1日より『宝塚市自転車の安全利用に関する条例』が始まりました。この機会に市民のみなさんがルールを勉強できる機会を増やしていくことが必要です。今でも交通安全教室などいろいろありますが、それがあつてを十分に伝えていなかったり、回数が少なかつたりします。宝塚市内の小学校では、一部の学校でしか自転車教室が行われておらず、対象が一部の児童に限られています。

そこで、まず、説明会などがあることを知ってもらうために、インターネットやラジオで知らせます。

また、自転車教室をまだ行っていない学校では、学校の先生が市役所や警察の人に依頼して授業で説明会などを行ってください。すでに行っている学校では全児童を対象に広げてください。地域では、公園や公民館などで自転車に乗る子どもや大人を対象に説明会などをします。時期は、土日休日に行います。

答弁：

全国的に自転車の交通ルールとマナーが守られていないことが社会問題になっており、宝塚市でも自転車に関係する交通事故の発生割合が高いことから、事故を防ぐための様々な取り組みを定めた「宝塚市自転車の安全利用に関する条例」を兵庫県で初めて作りました。

自転車を安全に利用してもらうために、これまでも宝塚市立小中学校などに呼びかけて、依頼があつた学校で自転車教室や交通安全教室での自転車講習を開催しています。地域においては、土日や夜間も含めて地域の会館や公園などで自転車教室を開催しています。また、高齢者の交通事故が多いことから、今年は市内の全ての老人クラブに自転車教室、交通安全教室の開催を呼びかけたところ、徐々に申し込みの依頼が増えています。

さらに、小学生と高齢者の自転車競技大会も開催しています。この大会は、実技と学科試験にチャレンジするもので、県大会で優勝した西谷小学校のチームが、全国大会に出場するというすばらしい成績を残されています。

このように、自転車の安全利用のために、自転車教室や自転車競技大会の開催や街頭での呼びかけを行っていますが、現状ではまだまだ自転車の交通ルールやマナーがしっかり守られているとは言えません。また、小中学校においては自転車教室、交通安全教室が開催できていない学校もあります。

これからは、全ての小中学校で自転車の安全な運転やマナーを学習する教室を実施できるようにするとともに、夏休みや冬休みなどの前に行う休み中の生活についての学習や、授業の中でも学習を深められるようにし、全ての児童が自転車のルールについて学習して、自転車事故がなくなるようにしたいと思います。また、こうした取り組みを行っていることをエフエム宝塚や市ホームページでわかりやすくお知らせします。

その後の対応状況：

平成25年10月1日、宝塚市自転車の安全利用に関する条例が施行されました。この条例に基づき、以前から実施している小・中学校での自転車教室開催を全ての学校で開催できるよう、未開催小学校には依頼、全ての小学校で開催することを目指してあります。その結果、開催校が増えています。地域では条件が揃えば土日曜日にも自転車教室を開催しています。また、街頭啓発や広報紙、市ホームページ、FM宝塚の出演放送でも交通安全啓発を行っています。

交通安全教室や、自転車の安全な運転やマナーを学習する自転車教室は、現在、市内すべての学校園では実施できていません。今後もさらに自転車のルールについての学習を深めて自転車事故がなくなるよう、交通安全教室や自転車教室の実施校園が増えるようにしていきます。

(防犯交通安全課、学校教育課)

25	グループ名	SAKSA'S	テーマ	外国人と心を通じあわせる
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応				
<p>質問（提案）：</p> <p>外国人が母国の文化を発表する場所をつくってはどうか。 場所は人がたくさん来て、どんな人でも行きやすい図書館や文化センターなどがコストもかからないのでいいと思います。日本に滞在している外国人の中には母国の文化を発表したくても場所がなくて出来ない人や他国文化を知りたくても知れない人が大勢います。 また、基本的な日本文化を体験してもらいたいと思います。 具体的には、餅つきや盆踊り、おはしの使い方などがいいと思います。外国人の中には、日本と母国のマナーや文化が全然違い、日本に滞在する上で支障がでている外国人がいます。国際文化センターで話を聞いたときに、外国の人が日本人には建て前と本音があることを知らなかったので、「日本人はうそつき」だと思ったという話を聞いてショックを受けました。でも、外国人に日本のマナーや文化を体験してもらったときにそのことを話せば、日本人を見直してもらえませんか。</p>				
<p>答弁：</p> <p>外国人が母国の文化を発表できる場所について、現在宝塚市では、様々なイベントや講座を開催していますが、他国の文化やしきたりを知る機会はまだまだ少ないように思います。市内在住の外国人の方に、自国の歌や民族衣装などを披露してもらう「国際交流フェスタ」というものがありますが、もっともっと多くの方が気軽に参加できるような工夫をしていくことが大切だと考えています。また、ネパール料理やブラジル料理などを紹介する料理教室なども開催していますが、大人だけではなく子どもたちも参加しやすい場を提供していくことが大切だと考えています。 外国人の方が「宝塚に引っ越してきてよかったな。」「大切にされているな。」と実感できるような催しを積極的に開催していけるよう取り組んでいきます。 次に、日本文化を外国人に体験してもらうことについては、ひなまつりやお花見などに参加できる機会をつくっていますので、より多くの方に来てもらえるよう取り組んでいきます。宝塚市では、「転入外国人オリエンテーション」を開催しており、日本での生活を支障なく送っていただけるように努めていますが、転入してきた初めのうちだけではなく、日々の暮らしの中で困ったことがあれば、その都度寄り添っていくということが大切です。また、日本の文化を知ってもらう、体験してもらうことと同じくらい大切なことは、外国人にも自国の文化を教えることだと思います。 ご提案いただいた図書館などで文化を発表する機会や餅(もち)つきや盆踊りなどを体験してもらい機会など、どんなことをすれば地域や学校で日本人と外国人との絆を育むことが出来るか、どのようにすれば多くの方に気軽に参加してもらえるのかを考えていきます。</p>				
<p>その後の対応状況：</p> <p>宝塚市では、宝塚市国際交流協会と共同で、いろいろな取り組みを行っています。 まず、外国人が母国の文化を発表する場所をつくることについては、市内にお住いの世界各国の出身の皆さんにその国の歌や民族衣装を披露してもらう「国際交流フェスタ」や、出身国の文化を紹介する講演会や料理教室を開催しています。 基本的な日本文化を外国人に体験してもらうことについては、節分などの伝統行事や和食などの日本独自の文化に参加できる機会を市内にお住いの外国人向けに行っています。また、新たに市内で生活を始められた外国人の方向けに「転入外国人オリエンテーション」を開催して、日本での生活を支障なく送っていただけるよう努めています。</p>				
（文化政策課）				

質問（提案）：

学校の先生用に日本語を話せない外国人の親と連絡が出来るようにマニュアルを作るというのはどうでしょう。

マニュアルを作れば、日本語を話せない親と先生が連絡を取り合えるようになります。子どもはすぐに日本語を話したり読んだりすることができるようになりますが、親はなかなか日本語を覚えられない家庭が多いと聞きました。そのため、電話で学校に欠席を言わないお母さんたちがたくさんいるそうです。

具体的な文化の違いとして、修学旅行や校外学習は自由参加の国もあり、そういった国では学校行事に参加させない家庭もあるそうです。そういうときに、先生用のマニュアルがあれば、先生と外国人の親がきちんと連絡を取り合うことが出来ると思います。

マニュアルの例として、「学校行事に参加しますか？」や「なぜ学校を休んだのですか？」などの簡単な会話が出来るようにすれば良いと思います。また、外国語をカタカナで表示するようにすれば、外国語がわからない日本人の先生でも相手に伝わるように読めると思います。

答弁：

日本人が外国に行くと、その国の言葉が話せずに困った経験をするかもしれません。それと同じように外国から日本に来た人たちも、困ったことがたくさんあると思います。学校に通う子どもはすぐに言葉を覚えますが、その親はなかなか言葉を覚える機会がなく、日本語を十分に話せない人がたくさんいます。

宝塚市では、3年前に外国人親子の悲しい事件が起きました。この事件を受けて、勉強を教えたり相談にのったりする「きずなの家 ともにいきる宝塚」が設立されました。また、市の国際交流協会の人たちが中心となって、ブラジル籍の子どもたちの勉強や日本語学習の支援をいただいている「宝塚ジョイア」という会もあります。

その他に学校でも様々な取組みを行っており、市からは日本語が十分に話せない子どもたちや、お父さんやお母さんのために、日本語のサポーターを学校に派遣して、授業での通訳や学校の先生と外国人の親が話すときの通訳などをしていただいています。今後も、外国の子どもたちやその親に寄りそった取組みを行っていきます。

マニュアルを作ってはどうかというご提案については、兵庫県がそういったマニュアルを作成していますので、市としては、今後そのマニュアルの活用をすすめたり、また他にも親と先生が十分に話ができるように、市と学校の先生が相談しながら、より良い方法を考え、取組みを進めていきます。

その後の対応状況：

日本語が十分に話せない子どもたちや保護者のために、学校へ多文化共生サポーターや日本語サポーターを派遣しています。このサポーターは授業や懇談での通訳などを行っています。また、学校へのスムーズな受け入れができるよう、兵庫県が作成した「外国人児童生徒受入初期対応ガイドブック」、「就学支援ガイドブック」や「学校生活単語・会話文例」等を活用しています。そこには、日本の学校制度の説明や、日本語が困難な保護者が学校に連絡する時に必要な「欠席」や「早退」などの言葉が、保護者の母語やひらがなと読みを表すローマ字で書かれているなど、保護者を支援する内容が書かれています。今後も、保護者と先生が十分に話ができるよう、より良い方法を考え、取組みを進めていきます。

(学校教育課)

25	グループ名	ラッキーCity宝塚	テーマ	まちの活性化
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応				
<p>質問（提案）：</p> <p>宝塚で新しくイルミネーションをすることを提案します。 イルミネーションといえば三宮にある、「ルミナリエ」や御堂筋があります。御堂筋は全長1.9kmもあり日本一だそうです。イルミネーションにはインパクトが必要だと思います。 そこで、宝塚駅から宝塚インターまでイルミネーションすると、およそ2.5kmになり御堂筋をこえて日本一になります。 更に清荒神の参道を12月31日だけ除夜の鐘のためにイルミネーションすることで話題性が生まれます。そうすることで、TVやマスコミなどで取り上げられ自然にPRすることができると思います。</p>				
<p>答弁：</p> <p>今回、宝塚駅から宝塚インターまでのイルミネーションや清荒神参道における大晦日限定のイルミネーションなど、実現すれば話題性が高く、また大勢の観光客の方々に来場いただけるような素晴らしいご提案をいただきました。観光客を増やすことは宝塚市が元気になるために重要なことであり、イルミネーションの活用も大変有効だと考えます。 以前開催していたイルミネーションを活用したイベント「光のさんぽみち」の経験から、大規模なイルミネーションを実施するには、周辺住民やお店の方々の理解や協力が必要になります。今年は難しいかもしれませんが、来年あたりから、どこでできるのかや清荒神清澄寺や参道周辺の方々への相談も含め、ぜひとも検討していきたいと思います。 また、宝塚で実施するのであれば、宝塚花火のように宝塚らしいと言っているようなものが実現できればと思います。</p>				
<p>その後の対応状況：</p> <p>皆さんが注目されたイルミネーションをはじめとして、最近では、建物に大きな映像を映し出すプロジェクションマッピングなど、光を活用したイベントは注目度の高いイベントです。このようなビックイベントを市内で実施してみても、皆さんをはじめとして多くの方々からもご提案をいただいておりますが、開催に要する費用の負担や多くの方々の協力が必要であることなど課題があるため、残念ながら実現の目途はたっておりません。 一方、清荒神の参道商店街では、竹灯籠を活用したイベントを開催されるなど、活発な動きもあることから、引き続き、市内の事業者や市民の皆さまとともに協力しながら、実現に向けて検討していきます。</p> <p style="text-align: right;">（商工勤労課）</p>				

質問（提案）：

Walkラリーについて提案します。

まち歩きは、宝塚にもありますが短くてコースが少ないです。施設見学で訪れた大阪市のまち歩きは50以上のコースがあると聞きました。宝塚にあるまち歩きも発展させていくべきなのではないでしょうか。

そこで、まち歩きではなくWalkラリーとして観光客の人に楽しんでもらうために、1つコースを考えてみました。宝塚駅からスタートして宝塚の代名詞ともいうべき歌劇をかんしょうしたあと、花の道を通り、手塚治虫記念館へ行き、有名なサンドイッチ屋の「ルマン」、温泉、炭酸せんべい屋をめぐったあと、宝来橋をわたり、駅に戻るといったコースです。

観光客や地元の人に宝塚をもっともっと知ってもらいたいと思います。

答弁：

宝塚には、武庫川の河川敷をはじめ、多くの方に知ってもらいたい、楽しんでもらいたい魅力的なものやきれいな場所がたくさんありますので、まち歩きを発展させるというのは、とてもすてきなご提案だと思います。

現在、市と市国際観光協会では、すでに市民のボランティア団体の方々に実施してもらっているまち歩きに加え、新たなまち歩きのコースづくりを進めています。

来年は、歌劇100周年、市政60周年、手塚治虫記念館開館20周年のトリプル周年の年にあたります。そこで、今年から花のみちや文化創造館など、歌劇ゆかりの場所を元タカラジェンヌの方に案内してもらってまち歩きのコースを作っており、宝塚市を訪れた方にとっても喜ばれています。

まち歩きは、身体の健康のためやまちの観光にもなり、歩くことの楽しさに触れることもできます。市では、少しでも多くの方に宝塚の良いところを知っていただくため、今回のご提案いただいた内容も含めて、いろいろな情報を参考にしながら、魅力的で楽しいまち歩きのコースづくりやコースを紹介するマップづくりなどを進めていきたいと考えています。

その後の対応状況：

花のみち周辺では、市民ガイド育成事業から誕生した「夢さがし隊」や宝塚歌劇のOGさんがガイドするツアーを新たに実施しました。以前からあるツアーも含めてとても人気がありました。また、それだけでなく、中山寺から清荒神清澄寺にかけてのコースや夢さがし隊がガイドした武田尾コースについても人気があり、宝塚のいろいろな魅力を伝えることができました。

（観光企画課）

質問（提案）：

私たちが知っている大きなまちや有名なところには、必ずといっていいほどご当地グルメがあります。そこで、宝塚のご当地グルメとしてすみれ食いをPRしてはどうでしょうか。

PRの方法として、「宝塚すみれ食い大会」を設けます。そして3つの部門、早ぐいの部、大ぐいの部、アイデアの部に分けます。アイデアの部は、今あるすみれ食いに何かをプラスする部と、宝塚の特産物を使った新しい食べ方を提案する部の2つに分けます。どちらとも味、見た目などをしん査したあと、「新すみれ食い」として登録します。

このようにすることで、市外の方からもこの大会に参加する人が増え、やがて全国に広がっていくと思います。そして、宝塚の店ですみれ食いを売ることによって郷土意識が高まり、宝塚がよりよくなっていくと思います。

※すみれ食いとは、「すみれgood eat」の略です。宝塚で有名な炭酸せんべいと牛乳を混ぜたものです。

答弁：

「すみれ食い」を広めていく取組みとして、宝塚商工会議所青年部では、おいしいまち宝塚やサマーフェスタなどのイベントでの販売やPR活動を行ってまいります。

今回ご提案いただいた「早ぐいの部」と「大ぐいの部」に関しましては、安全面への配慮も必要ですが、実施について商工会議所青年部の方々と検討したいと考えています。「アイデアの部」に関しては、ご当地グルメの開発になるのではと期待しますので、併せて検討したいと考えています。

商工会議所青年部の方々も、宝塚を知ってもらいたいとの気持ちからはじめた「すみれ食い」が、子ども委員の皆さんの心に届いたことを大変喜ばれております。

「すみれ食い」を広めたい、宝塚をもっと知ってもらいたいという皆さんの気持ちが、市外への情報発信となり、また市民の郷土意識の高まりにつながるよう、取組みを進めていきます。

その後の対応状況：

昨年の意見発表会で、皆さんが発表された「すみれ食い」の新レシピは素晴らしく、「宝塚すみれ食い」のアイデアとともに皆さんの斬新な発想に大変感心したところです。

「すみれ食い」を発案された商工会議所の方々は、一昨年に「すみれ食い」に続く宝塚市の名産品として「宝塚すみれシャンメリー」を商品化され、新たな名産品となるよう熱心に活動を続けておられます。この結果として、「宝塚すみれシャンメリー」は、第3回宝塚ブランド「モノ・コト・バ宝塚」に選定されるなど宝塚市の新たな名産品として着実に成長しています。

このように、現在、商工会議所の方々は「宝塚すみれシャンメリー」のPRをメインに活動されていますので、今すぐ「宝塚すみれ食い大会」などの大規模なイベント開催は難しいとのことですが、商工会議所の方々も私たち市役所も、名産品を新たに産み出して、全国に広めたいとの思いは皆さんと同じです。

今後、「すみれ食い」を全国にPRするタイミングが来たときには、一緒になって取り組んでいきたいと思っております。また、その時には是非皆さんのお力もお借りしたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（商工勤労課）